



## 《将来に向けた取組方針》

九電グループでは、「脱炭素社会の牽引」を経営上の重要課題（マテリアリティ）と位置付け、気候変動への対応に取り組むとともに、生物多様性の保全や資源循環等を含む「環境負荷の低減」に向けた取組みを進めています。生物多様性に関しては、事業活動における自然資本に関わるリスクや機会に関する分析を試行的に実施し、「九電グループ TNFD レポート 2023」にて情報開示しました。今後も継続的に、自然資本への影響と依存、リスクの評価を行い事業活動を展開することで、「ネイチャーポジティブ経済」への移行に貢献するとともに、ステークホルダーの皆さまからの信頼向上に継続的に取り組んでまいります。

## 〈具体的取組み事例〉

### ● 社有林の維持管理を通じた持続可能な社会の形成

九州電力は、グループ会社の九州林産と協働で4,447haの社有林を維持管理し、水源かん養やCO<sub>2</sub>吸収等、森林の持つ公益的機能の維持・向上に努めています。

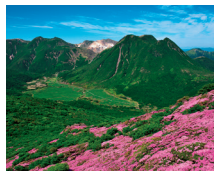
2005年には環境に配慮した森林管理が行われていることを認証するFSC<sup>®</sup>認証を電力会社として初めて取得する等、高い評価を得ています。



【社有林】

### ● 「自然共生サイト」の認証を通じた30by30目標への貢献

九州電力は、生物多様性に関する世界目標である「30by30目標」に貢献するため、環境省の「30by30アライアンス」に参加しています。2023年には、当社社有林の一部において、「令和5年度前期自然共生サイト」として認定を受けました。



【ミヤマキリシマ群生地】

### ● 九電みらい財団<sup>\*</sup>による環境活動

・ラムサール条約に登録された坊ガツル湿原一帯の自然環境を守るため、環境省や地域の方々との協働により、野焼き活動や希少植物保護活動に取り組んでいます。



【坊ガツル湿原野焼き】

・「くじゅう九電の森」、「いさはや九電みらいの森」で体験型の環境教育や、VR等を活用したデジタル環境教育を通して、子どもたちの環境意識啓発に取り組んでいます。

<sup>\*</sup>九州電力が設立した財団法人



【体験型の環境教育】

### ● TNFD<sup>\*</sup>提言を踏まえた開示

TNFD β版v0.4の情報開示フレームワークおよび電気事業者向けのガイダンスを参照して、事業活動における自然資本に関わるリスクや機会についての分析を試行的に実施し、2023年9月にレポートを開示しました。

<sup>\*</sup>自然関連財務情報開示タスクフォース